

令和5年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」

大阪市立田川幼稚園

令和6年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本園は、5歳児、4歳児、各1クラスの小規模園である。広い園庭で伸び伸びと遊ぶことができる恵まれた教育環境があり、少人数であることを強みとし、一人一人の姿、思いを、丁寧に受け止めることができる。

子どもたちは、様々なことに興味や関心をもって活動する姿が見られ、思いや考えを自分なりに表すことができる。家庭で経験していることに個人差があるため、幼稚園での集団生活を通して、相手の思いに気付いたり、思いを共有したりできるような取組をしていきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取組んでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を 80 %以上にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を 80 %以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を 80 %以上にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を 80 %以上にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を 80 %以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を 80 %以上にする。
- 令和 7 年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようと努力していますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を 80 %以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取組んでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。
- 令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。
- 令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。
- 令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 令和5年度の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。
- 令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようと努力していますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・保護者アンケートではすべての項目において、肯定的回答の割合が目標を上回り、高評価を維持することができた。幼児の実態を捉え、どのような育ちを見通し、保育を進めているか伝えることで、保護者が子どもの姿や育ちに関心をもつことにつながり、評価していただけたと感じる。引き続き、幼稚園の集団生活だからこそ得られる豊かな経験が積み重ねられるように、地域や保護者と連携して園生活の充実に取り組んでいきたい。
- ・前期のアンケート結果より、後期のアンケート結果で評価が上がっている・維持できている項目が多数であったが、下がっている項目もあった。幼児の実態把握や実態に合わせた丁寧な指導、取組内容の工夫を継続しながら、教育効果があがる方法を模索したい。

大阪市立田川幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 学校園の年度目標 ○令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取組んでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。 ○令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 非常変災時において、組織全体で幼児の命を守り、また、幼児自身も危険を回避できるよう、課題や成果を明確にして、避難訓練に取り組む。	A
指標・年10回以上、様々な想定の避難訓練を計画し、実施する。	
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 友達や教師などいろいろな人と一緒に活動することで、様々な思いや考え方につれ、人と関わる力を育む。	A
指標・週1回以上、異年齢交流活動をする。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 身近な人に親しみをもち、安心して過ごせるような環境や保育内容の工夫をする。	A
指標・学期に2回以上、就学前教育カリキュラムを活用して掲示物を作成し、育まれたことを保護者に知らせる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について
○令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は安全に対する意識や習慣が身に付くように取組んでいますか」の項目について「そう思う」92.3%、「だいたいそう思う」7.7%で、合計100%となり、70%以上にする目標を大きく上回った。
○令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」84.6%「だいたいそう思う」15.4%で合計100%となり、70%以上にする目標を大きく上回った。
【取組内容】について
① 地震時の避難訓練を3回（うち引き渡し訓練1回）、地震・津波想定の避難訓練を1回、火災時の避難訓練を4回、防犯訓練を2回、事前予告なしの訓練を1回実施し、計画通りに進めた。実施前後には、視覚的教材を用いて約束を知らせたり、なぜ避難するのかを知らせたり、どのような避難行動が必要かを話し合ったりするなど、子どもの実態に合わせた事前事後指導を行った。また、子どもの実態や教職員間の連携について、課題や成果を明らかにし、次

回につながるように反省を行ったことで、周知の仕方や連携のとり方、幼児の誘導の仕方を共通理解した。1月に実際に起きた能登半島地震をきっかけに、教職員全体で非常持ち出し袋の内容を改めて検討、入れ替えをし、見直すことができた。津波想定の訓練では、二次避難先である小学校へ避難した。今までの経験を生かし、教師の指示を聞いて落ち着いて避難する子どもの姿が見られた。津波とは何か、なぜ小学校まで避難するのか、十分に理解していた。事前予告なしの避難訓練は、限られた教職員のみが、時間や想定を知った状態で行った。実際に地震が起きたときに、幼児の誘導、安全確認を誰がどのように行うか、連携を確認できた。区役所の方と連携し、8、9月には防犯訓練を2回（うち教職員のみ1回）、1月には、教職員対象のさすまた講習会を行った。不審者侵入時の、さすまたの効果的な使い方や不審者を侵入させない連携のとり方などを教えていただきながら実践し、教職員の安全意識が高まった。以上より、進捗状況をAとした。

②異年齢交流活動を毎週1回計画的に実施した。活動内容を話し合い、好きな遊びの中で、自然と関わることができるように教師間で遊びや、子どもの姿を共通理解し、他クラスの友達を受け入れる環境を整えた。1学期は、異年齢ペアの友達と体操やダンスをしたり、手をつないで園外散歩に出かけたりする中で、互いに一緒に活動することに安心感をもち、異年齢活動を楽しみにできるようにした。入園当初の4歳児は、教師以外の関わりに不安を感じたり、泣いたりする姿があったが、4歳児が落ち着くまで5歳児は教師と一緒に待ったり、安心できる声かけをしたりする姿が見られた。また、4歳児の思いに寄り添ったり、待ったりする関わりがあったことで、徐々に4歳児はペアの友達に親しみをもって関わるようになった。2学期になり、いろいろな教師や友達と関わったり、触れ合ったりする活動を繰り返し行ったことで、自然と保育室を行き来したりして遊ぶ姿が見られるようになった。4歳児は、5歳児に優しくしてもらうことで、5歳児のことを信頼して刺激をもらいながら遊ぶようになり、5歳児は、思いやりの気持ちをもって関わろうとするようになった。3学期は、生活発表会の取り組みを見合う中で、4歳児は5歳児が取り組んでいる遊びに憧れの気持ちをもったり、5歳児は年下の友達に教える嬉しさを味わったりして互いに刺激を受け合ったり、自信をもったりすることができた。以上より、進捗状況をAとした。

③毎月末に、保護者と教育内容や子どもの育ちを共有することができるよう、掲示物を作成し、発信した。子どもの姿や育ち、教師はどのような思いをもって働きかけているかなど、写真を活用し、分かりやすい文章で作成した。保護者は、子どもの普段の姿や、何を楽しんでいたかなどを詳しく知ることができる機会として、見たり読んだりすることを楽しみにしており、保護者と子どもがともに安心して過ごすことにつながった。教職員も、改めて子どもの変容や課題、保育内容などを振り返り、子どもの育ちを見通して、何を伝えたいか考えたり、伝え方を工夫したりすることができた。以上より、進捗状況をAとした。

次年度への改善点

- ①発達段階や子どもの実態に合わせて、訓練時期や取り組み方を再検討する。
- ②引き続き、発達段階や季節など実態に合わせた取組内容や目的、見通しをもった異年齢活動を行う。

大阪市立田川幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 <u>学校園の年度目標</u> ○令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。 ○令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。 ○令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 身近な環境に関わって遊べるような活動内容を工夫する。 <u>指標</u> ・年4回以上、季節感を感じられるような環境の見直しを行い、自然に触れられる経験をする。	A
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 進んで体を動かして遊べるよう、実態に合わせた活動や遊びの工夫をする。 <u>指標</u> ・月1回以上、全園児で体を動かす活動に取り組む。	A
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 幼児一人一人の実態を把握しながら、野菜を収穫する喜びを感じたり、食べ物の種類や役割に興味・関心がもつたりすることができるような指導に取り組む。 <u>指標</u> ・年3回以上、視覚的教材を活用し、食育指導に取り組む。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は子どもの興味を広げる取組をしていますか」の項目について「そう思う」69.2%「だいたいそう思う」30.8%で合計100%となり、70%以上にする目標を大きく上回った。 ○令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「そう思う」100%となり、70%以上にする目標を大きく上回った。 ○令和5年度末の保護者アンケート「お子さんは食べ物の種類や役割に関心をもつようになりましたか」の項目について「そう思う」61.5%「だいたいそう思う」38.5%で合計100%となり、70%以上にする目標を大きく上回った。
【取組内容】について ①週案作成時、身近な環境に関わって遊べる環境や季節を生かした遊びについて話し合う機会をもつたことで、季節に応じた遊びを充実させることができた。様々な種類の花を栽培する

中で、美しさに心が動いたり、遊びに使おうとしたりする姿が見られるようになってきた。小さな生き物に親しむ経験も各学年の実態に応じて積み重ねられ、虫探しや世話を通して、生き物に親しみ、大切にする気持ちが育ってきている。また、夏と冬に親子栽培や園内の畑を活用して、季節の野菜を植えて生長の観察をした。栽培活動をする上で、植木鉢の配置や、日当たりなど子どもたちと考えたことで、生長や収穫を楽しみにし、継続して関心をもち続けることができた。教職員間で日常的に子どもの姿を共有し、より遊びを楽しんだり安全に遊んだりできるような環境を話し合い、今後の遊びの展開も相談し合うことで、園全体で充実した遊びにつながっている。以上より、進捗状況をAとした。

②全園児で体を動かして遊ぶ集会活動を毎週1回行った。発達段階や季節に合わせて、毎月全園児で共通の体操やダンスに取り組んだことで、4歳児は、音楽に合わせて体を動かすことを楽しみ、体操やダンスへの興味や関心が高まり、友達と一緒に体を動かす喜びを感じたり、集会への参加に期待をもつたりする姿が見られるようになった。5歳児は体を動かすことを通じて、異年齢の友達の手本になって、体を動かす楽しさを味わうようになった。12月から始めたマラソンの活動では、走る時間について教職員間で日々話し合ったり、毎日のマラソンが楽しみになるような掲示物を作成したりした。マラソンを始めてから体を動かす楽しさと気持ちよさが分かり、全身を使って遊ぶ遊具や、挑戦する運動遊びなどに興味や関心をもって取り組む姿が増えた。園庭の運動遊具は、発達段階を考え、安全に遊べるような配置場所、数量など、教職員間で共通理解しながら環境を整えたことで遊びを楽しむ姿が見られた。以上より、進捗状況をAとした。

②年間計画を立て、年3回食育指導を行った。1学期は、幼稚園で栽培する夏野菜を身近に感じられるような指導を行ったことで、野菜の生長に関心をもつたり、収穫を楽しみにしたりする姿につながった。栽培した野菜以外の野菜にも関心をもってほしいと思い、2学期は、いろいろな野菜の生長過程や生育場所について知らせた。また、野菜を食べることの大切さの指導をし、保護者にも啓発することで、苦手だった野菜を食べてみようとする姿が見られた。3学期は、食べ物にはいろいろな栄養があること（三色栄養）を絵本を使って指導した。指導後は、弁当に入っている食べ物に、どのような栄養があるのか関心をもつようになった。また、弁当にバランスよく三色の栄養が揃うようにしたいと保護者に伝える姿も見られるようになってきた。他にも指導で使った視覚的教材や野菜を掲示し、繰り返し触れるができるような環境づくりをしたことで、指導内容が定着した。以上より、進捗状況をBとした。

次年度への改善点

- ①引き続き季節に応じて園内の自然環境を生かした遊びが充実するように話し合い、環境を整えていく。
- ②今後も時期や実態に合わせて、体を動かしたくなる環境を工夫する。
- ③今後も子どもが食べ物に興味関心がもてるよう指導教材の工夫をしていく。

大阪市立田川幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 学校園の年度目標 ○令和5年度の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。 ○令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようと努力していますか」の項目について「そう思う」「だいたいそう思う」の割合を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 互いに学び合うことで教員の資質の向上に努める。	A
指標・年1回以上、全教員が主になって園内研修を行う。	
取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】 幼児が絵本に親しめる絵本環境や活動を工夫する。	A
指標・月1回以上、絵本環境の見直しや絵本を使った活動を行う。	
取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 開かれた園づくりのため、幼児の生活の様子や成長を家庭や地域に発信する。	B
指標・月1回以上、園の教育活動を発信する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

○令和5年度の保護者アンケート「お子さんは絵本に親しむようになりましたか」の項目について「そう思う」76.9%「だいたいそう思う」23.1%で合計100%となり、70%以上にする目標を大きく上回った。

○令和5年度末の保護者アンケート「幼稚園は取組内容を家庭や地域に発信しようと努力していますか」の項目について「そう思う」69.2%「だいたいそう思う」23.1%で、合計92.3%となり、70%以上にする目標を上回った。

【取組内容】について

①年度当初に計画を立て、次の表のとおり園内研修を行った。

実施月	対象	内容
6月	4歳児	氷を使った遊び（感触遊び）
7月	5歳児	気持ちについて考える活動
9月	4歳児	ザリガニの表現遊び（運動遊び）
10月	4歳児	目の働きと大切さについて（保健指導）
11月	5歳児	宝島の生き物をつくる（造形遊び）

今年度の園内研修は複数の視点で保育を読み取ったり、子どもの育ちにつながる部分を教職員全員で考えたりすることを意図して実施し、子どもの興味に合った活動の大切さや、環境構成の工夫、教材の有効な活用方法などについて学び合った。研究保育を動画で撮影し、当日保育を行った教員は、保育後に動画を見ることで、自分がそのときに見えていなかった部分に気付いたり、自分や子どもの発言を振り返ったりできる機会になった。研究討議では、協議用シートを活用し、視点に沿った意見を出し合った。教職員全員で子どもの育ちを共有したり、今後の援助の仕方等を考えたりし、深い学びのある討議会となった。園内研修を行い、保育を見合うことで、自分の保育を多面的に捉え、一人一人が今後のアプローチの仕方を考える機会となり資質向上につながった。以上より、進捗状況をAとした。

- ① 月1回以上、環境の見直しや、絵本を使った活動を行った。4歳児は、月刊絵本を用いて、毎月気持ちについて考える活動を行ったことで、1日の振り返りの時間に楽しかったことだけではなく、うれしかったことや困ったことなど、自分の思いを伝えることができるようになってきた。5歳児は、絵本や図鑑から興味が広がるように、生き物の成長過程、育て方、自然の中でどこに住んでいるのかなど、教師が子どもに知らせたい内容の絵本や図鑑を用意したり、子どもがその時に興味を持っている遊びの絵本を用意したりすることで、自分で読んでみようとする姿につながった。また、より子どもが絵本に親しめるよう、夏季休業中に教職員で絵本コーナーの絵本の見直しを行ったり、子どもの興味、関心に合った絵本を検討し、新しい絵本を購入したりした。1階にも絵本コーナーをつくり、環境を整えたことで、4歳児は興味をもち、進んで絵本を選ぶようになった。5歳児は絵本や図鑑を進んで見て、お話に関心をもったり、図鑑で調べたり、積極的な姿が見られた。長期休業の前には、保護者と一緒に絵本を選んで借りる機会を設けたことで、保護者が子どもの思いを聞いたり、コミュニケーションをとったりしながら絵本選びをする姿が見られた。以上より、進捗状況をAとした。
- ② 2月までに、ホームページの更新を計230回以上行い、園生活を通しての子どもの育ちや教育活動のための教職員の取組などが伝わるように発信した。また、大阪市就学前教育カリキュラムを活用して毎月掲示物を作成し、ホームページに掲載したり、園内に掲示したりした。未就園児の保護者や地域の方々など、より多くの方に教育活動を知っていただけるように、園外に貼り出す掲示物にホームページのQRコードを載せた。見たいときに見ることができるホームページの利点を生かして、発信を続けたことで、保護者と子どもが園生活の話題を共有したり、保護者が幼児の姿を詳細に知ったりすることにつながった。以上より進捗状況をBとした。

次年度への改善点

- ①園内研修は教職員の資質向上につながる貴重な機会なので、次年度も計画的に実施する。
- ②保護者と一緒に絵本に親しめる活動内容も検討していく。
- ③ホームページの更新を続けながら、それ以外の発信の仕方についても工夫する。